

がん検診を受診されるみなさまへ

国が推奨しているがん検診は科学的に有効性が認められたものです。
正しく理解し、がん検診を受診しましょう。

がん検診のメリットとデメリット

メリット

- 早期のがんを発見し、早めに治療を行うことでがんによる死亡率を低下させます。
- 早期発見により身体に負担の少ない治療で済ませることができます。
- がんになる前段階の病変を早期に治療することで発がんを予防できます。
- 「異常なし」と判定された場合に安心し、生活ができます。

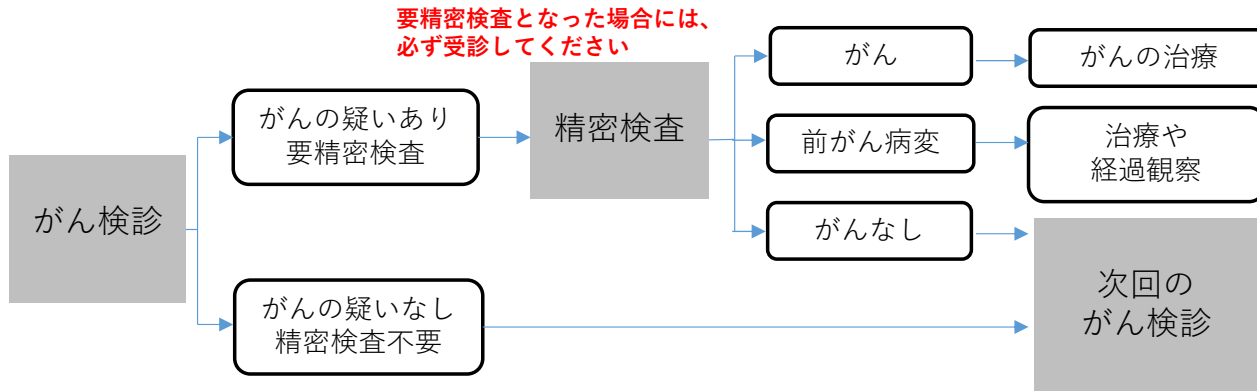
デメリット

- がん検診で100%がんが発見できるわけではありません。（偽陰性）
（がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見できない場合や、
検診では見つけられにくいがんもあります。）
- がんではなくても検診の結果「陽性」となる場合もあります。（偽陽性）
（結果的に過剰な検査や治療を行うことになる場合があります。）
- 検査によっては身体への負担や偶発症のリスクがあります。



がん検診のながれ

要精密検査となった場合には、
必ず受診してください



日本のがん統計

日本人の2人に1人ががんになると言われています。

がんの**死亡率**が高い部位

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓
女性	大腸	肺	膵臓	乳房	胃
男女計	肺	大腸	膵臓	胃	肝臓

2024年人口動態統計がん死亡データ

がんの**罹患率**が高い部位

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	前立腺	大腸	肺	胃	肝臓
女性	乳房	大腸	肺	胃	子宮
男女計	大腸	肺	胃	乳房	前立腺

全国がん罹患データ（2021年）

がん検診を待たずに医療機関を受診すべき自覚症状

- 胃：胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなど
- 肺：血痰、長引く咳、胸痛、声のかれ、息切れなど
- 大腸：血便、腹痛、便の性状や回数の変化など
- 子宮：月経（生理）以外に出血がある。
閉経したのに出血がある。月経が不規則など
- 乳房：しこり、乳房のひきつれ、乳頭から血性の液がでる、
乳頭の湿疹やただれなど

がん検診と精密検査について



がん検診の一覧

症状がなくても受診間隔を参考に継続的な検診受診が重要です

種類	検査項目・内容	受診間隔	対象年齢
胃がん	胃部エックス線検査※1 発泡剤とバリウムを飲み胃の中の粘膜を観察する検査です 胃内視鏡検査 胃の中を口または鼻から内視鏡で直接観察する検査です。	2年に1回 <small>※1当面の間、胃部X線については40歳以上、1年に1回の実施も可とされています。</small>	50歳以上
大腸がん	便潜血検査（2日法） 便に混ざった血液を検出する検査です。	1年に1回	40歳以上
肺がん	胸部エックス線検査 レントゲンにより胸の病変を見つける検査です。	1年に1回	40歳以上
乳がん	乳房エックス線検査（マンモグラフィ） 左右の乳房を片方ずつ挟み、圧迫して検査します。小さなしこりや石灰化を見つける検査です。	2年に1回	40歳以上（女性）
子宮頸がん	子宮頸部の細胞診 子宮頸部を専用の器具で擦って細胞を取り、がん細胞など異常な細胞がないか調べます。	2年に1回	20歳以上（女性）

一般財団法人 NSメディカル・ヘルスケアサービス

精密検査の方法

他の医療機関に精密検査を依頼した場合は、検診実施機関がその結果を共有します



胃の精密検査

●胃の内視鏡検査

胃エックス線検査後の精密検査は胃内視鏡検査を行います。必要に応じて細胞組織とり、がんかどうか調べる生検を行います。検診が胃内視鏡の時は検査時に同時に生検を行う場合があります。

大腸の精密検査

●全大腸内視鏡検査

事前に下剤を服用し肛門から内視鏡を挿入し大腸すべてを内視鏡で観察する方法です。必要に応じて組織を採取して診断します。

●S状結腸内視鏡検査・注腸エックス線検査の併用

全大腸内視鏡検査が困難な場合は内視鏡が届かない奥の大腸をエックス線検査で調べます。

肺の精密検査

●胸部CT検査

胸部X線を使って病変が疑われた部分の断面図を撮影し詳しく調べます。

●気管支鏡検査

気管支鏡を口や鼻から気管支に挿入して病変が疑われた部分を直接観察します。必要に応じて組織を採取し悪性かどうか診断します。

乳房の精密検査

●マンモグラフィの追加検査：詳しく検査する為多方向から撮影します。

●乳腺超音波検査：超音波により詳しく検査します。

●細胞診、組織診：疑わしい部位に針を刺して細胞や組織を採取し、悪性かどうか診断します。

子宮の精密検査

●コルポスコープ検査及び組織診

コルポスコープ（膣拡大鏡）を使い子宮頸部を詳しく見て、病気があると疑われる部分の粘膜の組織を採取し検査し悪性かどうか診断します。

●HPV検査

子宮頸部から細胞を採取しHPV（ヒトパピローマウイルス）に感染しているかどうかを調べます。